

高津区おはなしアーカイブ

●宮田 義彰 (みやた よしあき)さん

昭和5年生まれ 83歳

川崎市高津区新作



◆新作生まれ、新作育ち

生まれたのは新作の溝口寄りのほう。父は土建工業をやっていました。また、木を伐採して材木販売もしていましたし、他に田と畑を持っていて農業もやっていました。豚を飼っていたこともありましたね。豚は6カ月で成長して出荷できるんです。

鶏も飼っていましたね。卵は食べたけれど鶏肉を食べたって覚えがないから、売っていたんでしょうね。

父の仕事は兄が継いでいます。男3人女3人の6人兄弟でした。

小学校の1～2年生ぐらいまでは着物を着て、履物はゲタか自分で作った藁草履。

戦後はズック靴が配給されました。走りやすくて履き心地がよかったです。

洋服も配給のものやお下がりでもらったもの。新しいのを買ってもらうなんてことはないですよ。

子どもの頃には、おやつなんて食べたことがなかったですね。食事はだいたい麦ご飯に野菜を煮たの。肉は正月とお盆くらいしか食べませんでしたね。

◆新作は戦死者がとても少なかったんです

戦時中は上下関係が厳しかったです。先輩には挙手の礼！これができなくて殴られたことがありましたよ。後日お返ししたんですけどね（笑）。

学校の入り口脇にはご真影と教育勅語を納めた奉安殿が設置されていて、登校したらまず最敬礼です。二宮尊徳の像もありましたね。

戦時には徴用工といってね、強制労働にかりだされたんです。軍需工場で働くとかね。それで日本光学の地下工場を作るための穴掘りをやりました。地下工場ですよ。大変なことでした。結局終戦までには出来上がりませんでしたかね。

新作はね、戦死者がとても少なかったです。橋村のうちで、焼夷弾も爆弾も落とされなかったのは新作だけなんです。

現在新作のバス停がある辺りに爆弾の不発弾が落ちていたことがありましたが、62部隊が来て処理していきました。

小学校高等部の時、勤労働員で働いていた東中製作所から帰ってきたら、敵のグラマンが墜落していたんです。いやあ、ビックリしました。操縦士は生きていて捕虜になって、処刑されたって聞きました。

私は徴兵されなかったんです。それで志願兵の試験を受けたんですがなかなか入隊できなくて、待機しているうちに終戦になっちゃった。

◆湧水があり、水車が回っていた

小学校では普段から遊んでる子はいなかったですよ。ほとんどの家が農家だから小学生でも中学生でも畑や田んぼの手伝いをするのが当たり前のことで。藁打ちだの薪割りだの、女の子だと縄ないしたり、草むしりしたりね。

クラスは男組、女組、男女組って分けられてました。ひとクラスが多くて50人ぐらいでしたね。学校生活は楽しかったなあ。生徒会長もやりました。昼食は帰宅して家で食べてました。高等科では農業実習で畑作りをやりました。

他校との交流は多かったですよ。運動会では他校のリレー選手が来て、学校対抗リレーをやっていました。

学校へ通うときは高等科の生徒が引率してね。この辺は山で、木が茂っている他は

田んぼしかなくて、一人で歩くのが怖いような道でした。

市民プラザの入り口のあたりでは、以前は綺麗な湧水が噴き出っていて、畑で昼飯を食べるときにはその水を飲んでましたね。湧水は冷たいんですよ。もちろん田んぼにも使っていました。小学校にはいるころまでは水車が回っていましたよ。

田んぼに水を通すにも石堰、板堰、草堰って堰が3種類あって、通す水の量がちがうんです。

湧水の量はだんだん減りましたね。まあ、田んぼの作り方も変わってきましたけど。

◆相撲大会で景品をいっぱいもらったなあ

宮田の本家では庭に土俵を作っていてね、青年団の人が土俵を作っていましたけど、よくそこで相撲をとっていました。学校帰りにそっちへ行ってずっと入り浸り。夏休みなんて、お盆の大会が終わるまで家でお風呂に入ったことがなかったくらい(笑)。

相撲大会の時には、景品がでるんですよ。子どもの頃私は腕白だったから、強かったんですよ。

月遅れのお盆には大きな大会があって、その時には溝口の商店などからもたくさん景品が出されて、景品をいっぱいもらいましたね。

◆工業学校の卒業証書が3枚

私は橘小学校に通っていました。高等科を卒業して、川崎市立川崎工業学校へ進みました。新作から11人が通っていました。この学校は空襲で焼けてしまったのでしばらく桜本小学校の教室を借りておりました。それから川崎市立工業高等学校に行くようになったんですが、この学校が県立川崎工業高校と合併したので、両方から卒業証書をくれたもんだから、私は工業学校の卒業証書を3つも持っているんですよ（笑）。

合併前に市立の方に通っていた者は第三種電気主任技術者の資格が貰えたんです。県立しか通ってない人は貰えなかったんですよ。

戦後には県立は62部隊の跡地で兵舎をそのまま使って授業をやってました。

電気科に行っていましたんで富士電機で実習なんかさせてもらいましたね。

それから中央大学の法学部に行きました。私を可愛がってくれた父の友人が弁護士だったので、私も弁護士になろうと思ったんです。最初は夜間部だったんですが、身体を壊しちゃって昼のほうに移って卒業しました。

◆子ども達のためになるようなことを始めよう

卒業後はしばらく兄の仕事、父がやっていた土建業ですね、それを手伝っておりました。2年程して独立してコンクリート業

を始めました。コンクリートや建築資材の製造販売業です。一生懸命働いて、平成9年までやりました。

会社を解散した後、家内と相談しましてね、しばらく休養したら、子ども達のためになるようなことを始めようって計画してたんです。ずっと働きづめでしたから、まずは骨休めに旅行でもしようかと予定していたら、その直前に家内が亡くなりましてね。本当に直前のことでした。

子どもがいなかったんで、それからは一人暮らしです。家内が亡くなってから2年ぐらいは何もしないままに過ぎて・・・まあ、休養ですね。

◆悠友館の誕生

「悠友館」って名前はね、「出会ったら永遠の友だよ」っていう思いが込められているんです。家内と計画していたのは、親も子もいろんな人と交流したり、情報を得たり、一緒に楽しめる場所。その願いを形にした「悠友館」を平成11年にスタートさせました。

いろんな子どもさん、障害があるとか、学校になじめないお子さんとか、どんなお子さんも一緒に楽しく勉強したり遊んだりスポーツに親しんだりできるような居場所を提供するってことで、当初はずいぶんいろんな子どもたちが来ていました。教育長をしておられた池田輝夫先生からもアドバイスや励ましをいただきました。

だんだん子どもさんが減ってしまって、
今は勉強会はやっていません。

スポーツはずっと柔道をやっています。
悠友館を始めるときに、「それなら是非柔道をやれ」って、中央大の先輩に言われましてね、警視庁の道場で使っていた畳を頂きましたよ。以来、中央大からコーチや指導員が来てくれています。

やはり先輩や同期などの仲間は大切だなあとしみじみ思いますねえ。

現在、悠友館ではゆうゆう広場（親子で遊ぶ広場）、教育相談、柔道、英語、読み聞かせ、ヨガ、チャンバラ、映画会などを実施しています。

◆やっぱり新作がいい

以前住んでいた家は、第三京浜を作るために買収されましてね、今は東有馬に住んでいるんですよ。そこから毎日この悠友館に通っているわけです。

でも、やっぱりこの辺に住みたいくなって、近いうちに新作に戻ってこようと思っています。

（平成26年8月28日実施）